

2020年度 須坂高等学校 学校評価表 (部署別)

評価対象	今年度の具体的目標(評価項目)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	1 生徒の進路希望により対応した教育課程による研究をすすめる。 2 大学入試改革と新学習指導要領を見据えた授業時間や科目の配置について、新しいスタイルを研究する。 3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	・生徒の進路希望を実現できる科目配置ができたか。 ・新しい教育課程編成にあたって、大学入試改革と新学習指導要領を考慮して研究が進んだか。 ・教職員の意識を喚起していくことができたか。			
教育活動	1 主体的な学習姿勢、および継続的な学習習慣の確立を図る。 2 放課後や土曜日の自主学習支援の充実を図る。 3 教科指導力の向上を図る。 4 国立大学を中心とする生徒の希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。 5 大学入学共通テストに関する情報収集と職員・生徒・保護者への情報提供および校内の支援体制の構築を図る。 6 進路支援係より発行する冊子「進路選択の手引き」や「合格体験記」等を有効活用する。 7 中学校・大学との連携を図る。 8 検定検討会、3年進路検討会や進路研修会を通して職員の共通理解を深め、生徒への指導に生かされたか。 9 大学見学会等への参加を指導する。 10 土曜講座・夏期講座・特編授業等の充実を図る。 11 進路指導用教材を有効に活用する。 12 キャリア教育の充実を図る。	・公立授業や授業研究会を有効に活用することができたか。 ・主体的・実践的に学ぶ授業の工夫がうながされたか。 ・授業アンケート(調査)、生徒満足度の結果を踏まえ授業の向上へつなげる材料を構築できたか。また、生徒自らの学習への取り組みを見直し実施することができたか。 ・大学入学共通テスト(7割、900点)に多くの生徒が参加したか。 ・希望進路実現に向けての指導は適切であったか。 ・情報収集・情報提供は適切であったか。 ・適切な支援体制を作ることができたか。 ・教科や教材での活用が進んだか。 ・学習記録や評価作成のために有効に活用されたか。 ・中学校との連携を深め、情報を発信することができたか。 ・大学見学や視察研修を通じて大学との連携を深めることができたか。 ・須坂大学工学部との連携講座を充実したものにすることができたか。 ・検定検討会、3年進路検討会や進路研修会を通して職員の共通理解を深め、生徒への指導に生かされたか。 ・より多くの生徒が大学見学会等に参加したか。 ・生徒が大学の情報を得たか。 ・多くの生徒が熱心に参加できたか。 ・各学年の生徒の希望や関心に応える内容であったか。 ・指導の時期は適切であったか。 ・ライブ授業が計画的かつ効果的に活用されたか。 ・進路指導書籍は有効に活用されたか。			
教育活動	1 学校生活の中で生徒自らが「個性の伸張」を認め、好ましい人間関係を育む。 2 日常生活の中でさまざまな課題に対して、主体的に判断して行動する力を養う。 3 自分の行動に責任を持たせ、精神的に成長・発達・よとする態度を支援する。	・生徒自ら基本的な生活習慣を確立させるべく性向ができたか。 ・いろいろな状況で、責任を安心して学校生活を運ぶような実践ができたか。 ・進路選択に関する意識を高められたか。 ・私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 ・交通安全の意識を高められたか。 ・生徒会、授業委員会等と連携して、自らの責任を担うことができたか。 ・保護者や関係機関との連携を密にした支援体制が構築されたか。 ・「特別な事情のある生徒」に対して、個々の状況に応じて支援することができたか。 ・「特別な事情のある生徒」への対応において、個人情報(記録)した上での職員間の情報共有が図られたか。			
教育活動	1 基本的人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを日常の生活の中で図る。	・人権や平等の問題について積極的に考え、行動する力を伸ばす機会や機会、状況に応じて設けることができたか。 ・ホームルーム、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。			
教育活動	1 より良い学校生活を営むためにお互いの意見を尊重し合いながら計画を立案し、その計画の実現を目指すよう支援する。 2 生徒会執行部、各委員会が連携して活動ができるよう生徒期の協働性を向上させる。 3 地域社会の活動に、生徒が主体的に取り組み、その成果を発信できるよう環境を作る。	・基本的な方針をもとに計画を作成し、協議を深めて具体的な計画が立てられたか。 ・協議を深め、次の活動に活かすことができたか。 ・委員会の活動が執行部と共有され、全体のものとなっているか。 ・生徒会活動を通じて生徒間の協働意識が深められたか。 ・関係者の各種事業に主体的に協力できたか。 ・自らの活動を地域に向けて発信できたか。			
教育活動	1 図書利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。 2 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。 3 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。 4 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	・図書利用が増えたか。 ・利用者の要望に応じることができたか。 ・自主学習などにも、多くの生徒が利用したか。 ・利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。			
教育活動	1 心身の健康管理を図る。 2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。 3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。 4 環境の管理を図る。 5 保健指導を充実させる。	1 保健室への来室者への対応が適切であったか。また、コロナ対策を含め、関係者や担当部署との連携・連携ができていたか。 2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。 3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。 4 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。 5 コロナ対策を含め、自身の健康管理に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。 ・保健委員会による広報活動 ・保健委員会の活動支援			
教育活動	1 校舎内外の環境美化を図る。	清掃が日常的にきちんと行われ、トイレを含む校舎内外がきれいにして清潔に保たれているかの確認 各種清掃用具が足りているかの確認			
教育活動	1 P T A活動を話し、学校と保護者及び保護者間の情報交換と信頼が深められるようにする。 2 P T A研修会が保護者にとって本校生徒の生活や進路指導についての理解と信頼を深める機会となるようにする。	・P T Aの諸会合の案内が会員に周知できたか。 ・P T A活動に関する情報が会員にスムーズに発信できたか。 ・P T A研修会の案内が会員に周知できたか。 ・P T A研修会に多くの保護者に参加したか。 ・P T A研修会の満足度は高かったか。			
学校運営	1 学校の円滑に運営されるように努める。 2 校内の情報を外部に発信すると共に、個人情報等の漏洩に注意し、本校への一層の理解を深めてもらう。	・校内の諸行事が適切に計画・運営されたか。また、生徒・教職員・保護者に対して周知徹底が図られたか。 ・月曜の発行やホームページを通じて周知、日課に応じたチャイムの設定などにより、生徒・教職員の学校生活が円滑に暮らしたか。 ・オンライン授業の導入等に生徒・教職員・保護者に対してわかりやすく周知徹底が図られたか。 ・公開授業、体験授業、学校説明会において適切に発信を行い、多くの中学生・保護者の参加が果たされたか。 ・ホームページやパンフレットなどによって、本校の活動を外部に向けて広く発信できたか。また、時期に応じた適切な情報をホームページに掲載できたか。			
学校運営	1 情報処理機器及びネットワーク等による校務の合理化の推進を図る。 2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。 3 情報の管理という面で個人情報や著作権に関して職員や生徒へ周知を図る。	・校内LANにおいて、使いやすさやセキュリティ確保の観点から情報の整理が進められたか。 ・アプリケーションソフトや機器の導入・更新を進め、ネットワークの維持管理を適切に行えたか。 ・授業や各種講座、研究授業等でネットワークおよび情報機器を活用できたか。 ・学校ホームページについて、各係から依頼された話題は迅速に中に対応することができたか。 ・個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員や生徒に伝えたか。			
学校運営	1 緊急体制を整備・確立する。特に機器を点検する。 2 近年の災害の頻発に鑑み、防災意識を高める。	・緊急連絡用としてオンラインミーティングの有効な活用ができたか。 ・避難経路が図られたか。 ・避難訓練が有効に行えたか。 ・防災についての意識を高めることができたか。 ・使用規定に従い、安全なストーブ使用ができたか。			